

Team Le Mans

2019年 SUPER FORMULA シリーズ  
Round.1 鈴鹿サーキットレースレポート



UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

UOMO SUNOCO SF19

#7 Artem Markelov

#8 Kazuya Oshima



## 大会概要

2019 全日本スーパーフォーミュラ選手権 シリーズ第1戦

## 大会名称

2019 NGKスパークプラグ 鈴鹿2 & 4レース

## 開催日時

4月20日 土曜 (予選) 4月21日 日曜 (決勝)

## 開催サーキット

鈴鹿サーキット 国際レーシングコース (4輪フルコース 1周 5.807 km) 所在地: 三重県鈴鹿市稲生町7992

## 同時開催レースカテゴリー

- ・2019 全日本F3選手権 第1戦&第2戦
- ・2019 N-ONE OWNER'S CUP Rd. 2
- ・2019 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦/鈴鹿8耐トライアウト2ndステージ (2輪 JSB1000レース)

## 主催

4輪: グループ・オブ・スピードスポーツ (GSS) / 鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC) / 株式会社モビリティランド

## 公認

4輪: 国際自動車連盟 (FIA) / 一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

## 認定

4輪: 株式会社日本レースプロモーション (JRP) / 日本フォーミュラ3協会 (JF3A)

## 後援

スポーツ庁 / 観光庁 / 三重県 / 鈴鹿市 / 鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会 / 一般社団法人 鈴鹿市観光協会 / 鈴鹿商工会議所

## 大会冠協賛

日本特殊陶業株式会社



## ◆ UOMO SUNOCO TEAM LEMANS 参戦体制

### ■ ドライバー



### #7 アーテム マルケロフ ARTEM MARKELOV

生年月日 1994年9月10日  
 出身地 ロシア  
 身長 182cm  
 体重 73kg  
 血液型 RH-O

### ■ 監督



### 片岡 龍也 TATSUYA KATAOKA

生年月日 1979年5月1日  
 出身地 愛知県  
 身長 168cm  
 体重 75kg  
 血液型 RH+O



### #8 大嶋 和也 KAZUYA OSHIMA

生年月日 1987年4月30日  
 出身地 群馬県  
 身長 170cm  
 体重 62kg  
 血液型 RH+A

### ■ スタッフ

#7 チーフエンジニア	森藤 健吾	#8 チーフエンジニア	阿部 和也
#7 チーフメカニック	小倉 啓悟	#8 チーフメカニック	北井 修司

### ■ スポンサー

日本サン石油株式会社	TONE株式会社	リンテック株式会社
株式会社集英社UOMO	大同基礎工業株式会社	株式会社アシックス
株式会社前田シェルサービス	城東電機株式会社	トヨタカスタマイジング& ディベロップメント株式会社
株式会社オウルテック	株式会社ニチネン	トヨタ・ヤング・ドライバーズ・ プログラム
DMG森精機株式会社	株式会社不二WPC	トヨタ自動車株式会社
カトー機械株式会社	引田時計店	横浜ゴム株式会社
エバー株式会社	広島化成株式会社	
株式会社三笠製作所	エンバイヤ自動車株式会社	



## ◆ 予 選

天気	晴れ
コース状況	ドライ
気温	23度 (予選Q 1 開始時)
路面温度	35度 (予選Q 1 開始時)
予選開始	15時45分



日本最高峰であることはもちろん、アジア最高峰、そしてワンメイクのフォーミュラカーを使用して争うシリーズとしては世界最高峰と言っても過言ではない全日本選手権、それが「全日本スーパーフォーミュラ選手権」である。このレースに今年もUOMO SUNOCO TEAM LEMANSは2台体制で参戦する。マシンは新型のダラーラS F 1 9、タイヤも全車がヨコハマ製を履く。エンジンは2メーカーの参戦があり、UOMO SUNOCO TEAM LEMANSはトヨタ/T R Dの直噴2リッター直4ターボを搭載して戦う。今季のドライバーは、7号車に期待の新戦力、欧州のF 2でシリーズ上位実績をもつアーテム・マルケロフを起用。そして8号車にはエース大嶋和也が継続して搭乗する。昨年のチャンピオンエンジニアである阿部和也が久々にチーム復帰というのも戦力アップ材料だ。開幕戦は今年も鈴鹿、予選前日の金曜練習走行からレースウィークが始まった。

### #7 アーテム・マルケロフ選手

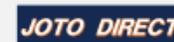
**予選結果：20位 (予選Q 1 ベストタイム：一分一秒一)**

好天に恵まれた予選日。しかしマルケロフは午前中のフリー走行の早い段階でコースアウトを喫してしまい、セットアップを煮詰める時間をロス、苦難の発進となった。セッション中に再び走行することはできたが、このカテゴリーでは新人のマルケロフにとって開幕戦の予選へのアプローチとしては辛い展開になってしまった。迎えた午後の予選、2種類あるドライ用タイヤのうちミディアムコンパウンドのみ使用可能なQ 1でもマルケロフは残念ながらコースオフ、実質ノータイムで20位に。

### #8 大嶋和也選手

**予選結果：13位 (予選Q 1 ベストタイム：1分38秒927)**

予選Q 1は混乱した展開になった。赤旗中断となるアクシデントが相次ぎ、最後は20台中16台が残り、Q 2進出枠の12台を実質一発勝負で競うかたちになる。大嶋はそこで1分38秒927をマーク、12番手に残れるかと思われたのだが、後からタイムを出したライバルに上回られ、惜しくも13位でQ 2進出はならなかった。「ちょっとミスもあったので、差が小さかっただけに悔しいです」と大嶋。まとめきれれば確実にQ 1突破という感触があっただけに残念だが、悔しさは決勝で晴らしたい。



## ◆ 決 勝

天気	晴れ
コース状況	ドライ
気温	25度 (決勝スタート前)
路面温度	37度 (決勝スタート前)
決勝レース開始	14時00分 (フォーメーションラップ発進)
周回数	43周 (約250km)



### #7 アーテム・マルケロフ選手

**決勝結果：10位 (所要時間：1時間28分58秒717、ベストタイム：1分43秒756)**

決勝日も晴れて、路面はドライ。スーパーフォーミュラの決勝レースではドライコンディション時、ソフトとミディアムの両方のスペックのタイヤを必ず履く原則がある。マルケロフはスタートタイヤにミディアムを選択し、20番グリッドから来日初レースに臨んだ。そしてこの日のレースはセーフティカー（SC）導入連発の荒れた展開に。そのなかでマルケロフは着実にポジションを上げていく。最初のSC導入時、9周終了のタイミングでマルケロフは多くのマシンとともにピットストップして給油とソフトへのタイヤ交換をする。この段階で12番手。その後もサバイバルレースを生き残り、レース後半には見目上8番手、実質7番手と入賞圏まで進出した。しかしながら、SC導入中の追い越しでドライブスルーペナルティを受け、最終的には11番手でゴールに。上位車のペナルティで最終確定リザルトは10位となった。

### #8 大嶋和也選手

**決勝結果：12位 (所要時間：1時間29分00秒692、ベストタイム：1分43秒445)**

グリッド中団の13番グリッド発進の大嶋も、スタートタイヤにはミディアムをチョイスした。序盤からポジションを落とし、3周目には最後尾まで後退する局面もあったが、7周終了時、ここでピットインして給油すればゴールまでいけるほぼ最短タイミングでピットに入った大嶋は、履きかえたソフトタイヤでまずまず以上の好ペースを発揮する。SCによる展開の利も得つつ、ポジションは上がっていった。レース後半には見目上6番手、まだピットに走っていないマシンを除けば実質5番手に位置することに。大嶋は前を走る16号車を抜くことこそ叶わなかったが、5番手でチェッカーフラッグを受ける。しかし、SC導入中の再スタート時の追い越しという違反によりレース結果に30秒加算のペナルティを受けてしまう。これによって大嶋の順位は12位に下がることとなってしまった。決勝好走だっただけに、実に残念な結末となった。



## アーテム・マルケロフ選手のコメント

フリー走行から予選と、厳しい展開のレースウィークでしたが、決勝日になって良い方向性を見つけられ、レースに向けてのセット改善も良く作用したと思います。レースではマシンが安定性を増し、タイヤの性能維持に関してもいい傾向の仕上がりになっていました。最後尾発進から実質7番手というところまで上がったことは良かったです。現状では、高速コーナーはいいのですが、低速コーナーに（セットアップ面で）課題があるように感じています。そこをチームとともに克服していき、次のオートポリスは（テスト経験もない）初めてのコースになりますが、トップ6を目指して戦っていきたくと思っています。

## 大嶋和也選手のコメント

ミディアムタイヤでのパフォーマンスには改善すべき点がまだ大きいと感じていますが、ソフトに関していえばレース中、ほとんど常に他車の影響を受ける状態で走っていたにもかかわらず、そこそこいいペースで走れていたと思います。もちろん、まだまだ（全般的に）やるべきことが多い状況であることも理解していますが、新しく組んだエンジニアの阿部さんもクルマのことをつかんで来てくれていますし、今年はこの先チャンスがあると思います。今回は残念な結果になりましたけど、気持ちを切りかえて、これから頑張っていきます。次のオートポリスは好きなコースですし、いい結果も出たことがあるので、うまくまとめていきたいですね。

## 片岡龍也監督のコメント

新体制で迎えた開幕戦でしたが、予選ではマルケロフがコースオフ、大嶋もQ1突破ならずと、我々が望んだ結果にはなりませんでしたが、でもレースは荒れるだろうとの読みもありましたので、とにかく臨機応変な戦いを意識して臨み、実際にそれをする事もできたとは考えています。しかしながら、結局ペナルティで順位を落とす結果になってしまいました。応援していただいたファンの方々に対して申し訳なく思っています。

ただ、レース中の大嶋のラップタイムペースはシーズンを見通しても「戦える」と思えるようなパフォーマンスレベルにありましたし、我々としては手応えを感じられるところもあった内容の開幕戦でした。次のオートポリス戦でしっかり挽回していきたくと思っています。

## シリーズランキング

マルケロフ選手	一位／ーポイント
大嶋選手	一位／ーポイント
チーム部門	一位／ーポイント



## ◆その他サーキット内イベント報告

### ◆観客動員数

開催期間中 延べ入場者数 約58,000人

4月20日 土曜 (予選日 天気:晴れ) 23,000人

4月21日 日曜 (決勝日 天気:晴れ) 35,000人

### ◆ピットウォーク

開催日程 4月20日 12:20~13:10

4月21日 12:05~12:55

### ◆キッズウォーク

開催日程 4月20日 17:00~17:30

主催 JRP、鈴鹿サーキット

参加者 アーテム・マルケロフ、大嶋和也

ピットロード開放エリアにて握手&サイン会、撮影会、グッズ提供等を行ない、今回も沢山のお客様をお迎えすることが出来ました。決勝レース開始前にはグリッドウォークも実施されています。

